期末レポート

授業名　:　現代の法と政治を考える(水4)

教員名　:　田中 慎吾

開講年度　:　2015年前期

提出日　:　2015年8月5日

氏名　:　中村 真也

学籍番号　:　09B14054

所属　:　基礎工学部 情報科学科 計算機コース

学年　:　2回生

Email　:　u110864b@ecs.osaka-u.ac.jp

米国外交史において私が特に重要だと判断する戦争の1つめは第二次世界大戦である。1939年9月1日、ドイツ軍がポーランドへ侵攻した。そのご、1940年にノルウェー、フランスなどを次々と占領した。さらに、イギリス本土への空爆を開始する。その後、ドイツは、イタリアおよび日本と日独伊三国同盟を結成する。イギリスの首相チャーチルはアメリカ大統領ルーズベルトに参戦を要求、ルーズベルトは日本に先に攻撃させることによって、その同盟国であるドイツを攻撃することによって、イギリスを支援し、さらに中国を助け、太平洋を囲む南北アメリカ、中国、日本、東南アジアの地域で、アメリカが主導権を握るという「環太平洋圏」を実現できるということを思いつき(出典:太平洋戦争の原因～石油でも満州国でもなく～http://www.benedict.co.jp/Smalltalk/talk-266.htm)、思惑通り、日本の真珠湾攻撃をさせ、太平洋戦争に突入するとともに、欧州戦線に参戦する。

その後、日本はミッドウェー海戦で劣勢になり、ドイツはスターリングラードの戦いで敗れてしまう。イタリアはイギリスとアメリカの連合軍に上陸され、1043年9月に無条件降伏する。さらに、1945年5月にドイツも無条件降伏を受け入れる。そして、1945年の8月には広島、長崎に原子爆弾を落とされ、日本も無条件降伏する。これによって、第二次世界大戦は終結した。

私が第二次世界大戦を選択した理由の１つは、この戦争の後に行われたヤルタ体制で東西の関係が悪化、冷戦の原因となったからである。

この戦争による米国外交への影響は、1947年3月には、「トルーマン･ドクトリン」により、共産主義の封じ込め政策が名言され、「マーシャル・プラン」は、米ソの対立を決定的な物にした。また、この戦争による軍事経済が景気を好転させたことにより、ミリタリー・ケインジアン・エコノミーといわれるように軍事色が強くなった。さらに、ドミノ理論に基づき、冷戦の代理戦争に積極的に介入していくようになって行くようになった。さらに、経済的には国際的管理としてのドル体制のIMF、GATT体制、ドルの基軸通貨化などによる、パックス・アメリカーナが確立されていくことがあげられる。

米国外交史において私が特に重要だと判断する戦争の2つ目はベトナム戦争である。1955年にベトナム南部に、アメリカの支援を受けたベトナム共和国が樹立された。しかし、秘密警察による弾圧や上座部仏教の僧侶に対する嫌がらせなどの恐怖政治が行われた。これは国民を反政府に押しやり、1960年には南ベトナム解放民族戦線が結成された。民族戦線は北のベトナム民主共和国の援助を受けて政府軍と戦った。

1965年に、トンキン湾で、アメリカ軍の駆逐艦が北ベトナムから攻撃を受けた。その翌日にも攻撃を受けたとして、ジョンソン大統領は報復を命令、北ベトナムに対する爆撃を行ったとアメリカはっぴょうした。しかし、攻撃を受けた駆逐艦は、実は北ベトナムの領海を侵犯していたといわれている。この後、アメリカ議会は大統領に戦争指揮の全権を与えるトンキン湾決議を行い、ジョンソンにフリーハンドを与えた。

同年にアメリカ海兵隊は南ベトナムのダナンに上陸、これによりアメリカ軍による戦争への直接介入が開始された。この後海兵隊はさらに増強され、一時は50万人を越える若者が投入された。この戦争の特徴は、前線が存在せず、ゲリラ戦が主だったことや、枯葉剤やナパーム弾による爆撃などにより多くの民間人に被害が出て、かつそれがマスコミによってアメリカ市民に直接伝えられたことである。

マスコミによってベトナム戦争での民間人の被害や、枯葉剤によってベトナム人に生まれるようになってしまった奇形児などの状況が報道されたため、反戦運動が大きく展開された。また、1968年1月、テト(ベトナムの旧正月)に解放戦線による一斉蜂起がおこった。解放戦線は首都サイゴン市を含む主要都市で蜂起、サイゴン市では大統領官邸、軍中枢、アメリカ大使館を襲った。このうち大使館は占拠され、この様子は世界に生放送された。また、逮捕された解放戦線兵士が路上で政府軍によって処刑されたのが報道されると、世界中に衝撃をあたえた。

1973年にアメリカ軍は完全にベトナムから撤退、2年後の1975年4月30日、ついに南ベトナム政府が崩壊した。

私がベトナム戦争を選択した理由は、初めてアメリカが外部に対して屈辱的な敗北を喫した戦いであり、さらに、マスコミによって始めて戦争の具体的なイメージが国民に発信され、国民の政府に対する信頼が大きく揺らいだ戦争だからである。

ベトナム戦争が米国外交に与えた影響の1つは、北爆や枯葉剤による奇形児などの被害がマスコミによって映像で報道されたことによって、国民が戦争の残虐性を目の当たりにすることにより、反戦運動が大きく展開されるようになったことで、政府が外国に介入しづらくなったことがある。次に、戦争に多くの資金を投入したことによって、アメリカ経済は疲弊し、ドルの価値が大きく低下した。さらに、ブレトン・ウッズ体制を放棄して、金とドルの交換を停止するという、ニクソン・ショックによって、西側諸国の失望を買ったこともあげられる。

参考文献

* 太平洋戦争の原因～石油でも満州国でもなく～: <http://www.benedict.co.jp/Smalltalk/talk-266.htm>
* リデル ハート (著), B.H.Liddell Hart (原著), 上村 達雄 (翻訳)「第二次世界大戦（上・下）」2000年
* 太平洋戦争の新事実　普遊舎2014年
* 稲田義久　戦後アメリカン・システムの特徴:パックス・アメリカーナ: http://kccn.konan-u.ac.jp/keizai/america/02/01.html